

平成12年10月11日

お知らせ

オカミミ貝などの希 少貝類の救出作戦！

問い合わせ先
建設省 中国地方建設局 岡山河川工事事務所

副所長 松本 (内線205)

工務課長 あさかだ 小坂田 (内線311)

t e l 0 8 6 - 2 2 3 - 5 1 0 1 (代表)

プレス発表連絡票

<p>区 分</p>	<p>レクチャー お知らせ</p>
<p>発表希望日</p>	<p>平成12年10月11日(水)</p>
<p>件 名 (概要)</p>	<p>オカミミ貝などの希少種貝類の救出作戦！</p> <p>吉井川水系永江川が合流する岡山市乙子地区は、無堤箇所であり、平成2年9月の豪雨により、当地区及び、邑久町、長船町まで甚大な被害をもたらした。 これを契機に建設省では、築堤及び逆流防止施設(永江川樋門)の建設に着手しています。 平成12年2月より工事着手し平成15年度事業の完成を目指しています。</p> <p>当地区築堤事業に伴う工事予定箇所には、希少種の貝類の生息が、今年確認されました。 現在、一部樋門工事に着手していますが、建設省岡山河川工事事務所と樋門工事請負者の(株)クボタ建設が協力して、周辺の生態系を極力保全するため、来年度から着手予定箇所に生息する希少貝類を採捕し、工事予定区域外の永江川右岸側に移動させるものです。 実施に当たっては、岡山大学水系保全学研究室の福田宏助教授に協力を依頼しご指導いただきます。 また、このように希少な貝などが、この地区に生息していたことを広く地域の方々にも知っていただき、このような良い環境を保全する意識を高めてもらいたく、周辺住民の方々にも参加いただきます。 今回は、第1回目として、約35名が参加し実施しますが、今後、数度に分け段階的に行う予定です。</p> <p>実施日時 :平成12年10月12日13:30~16:00 日時は天候等により変更になる場合があります。 場 所 :岡山市乙子地内 参加人員 :建設省職員 15名 岡山大学 3名 久保田建設(株) 2名 周辺住民 15名</p> <p>対象貝類 :オカミミ貝、ヒロクチカノコ貝</p>
<p>担 当 課 担 当 者 (内線)</p>	<p>問い合わせ先 建設省 中国地方建設局 岡山河川工事事務所 副所長 まつもと 松 本 (内線205) 工務課長 おさかだ 小坂田 (内線311) TEL 086-223-5101(代表)</p>
<p>備考</p>	

オカミミ貝などの希少種貝類の救出作戦！

(概要)

吉井川水系永江川が合流する岡山市乙子地区は、無堤箇所であり、平成2年9月の豪雨により、当地区及び、邑久町、長船町まで甚大な被害をもたらした。

これを契機に建設省では、築堤及び逆流防止施設(永江川樋門)の建設に着手しています。平成12年2月より工事着手し平成15年度事業の完成を目指しています。

当地区築堤事業に伴う工事予定箇所には、希少種の貝類の生息が、今年確認されました。現在、一部樋門工事に着手していますが、建設省岡山河川工事事務所と樋門工事請負者の(株)クボタ建設が協力して、周辺の生態系を極力保全するため、来年度から着手予定箇所に生息する希少貝類を採捕し、工事予定区域外の永江川右岸側に移動させるものです。

実施に当たっては、岡山大学水系保全学研究室の福田宏助教授に協力を依頼しご指導いただきます。

また、このように希少な貝などが、この地区に生息していたことを広く地域の方々にも知っていただき、このような良い環境を保全する意識を高めてもらいたく、周辺住民の方々にも参加いただきます。

今回は、第1回目として、約35名が参加し実施しますが、今後、数度に分け段階的に行う予定です。

実施日時 :平成12年10月12日13:30~16:00

日時は天候等により変更になる場合があります。

場 所 :岡山市乙子地内

参加人員 :建設省職員	15名
岡山大学	3名
久保田建設(株)	2名
周辺住民	15名

対象貝類 :オカミミ貝、ヒロクチカノコ貝

(オカミミ貝)出典 :オルビス学習科学図鑑

内湾のアシ原や干潟の石の間に住む。

殻口の形が耳を思わせる。

分布 :東京湾、伊勢湾、瀬戸内海、有明海。



(ヒロクチカノコ貝)出典 :オルビス学習科学図鑑

河口の石ころなどに付着している。

半球形で塔は、うずまって見えない。

殻の表面はなめらかで、網目模様がある。

分布 :紀伊半島以南



オカミミガイ (有肺目・オカミミガイ科)

殻長 25-30mm 程度の巻貝。「オカミミガイ」は「陸耳貝」で、「陸に棲む人間の耳のような形をした貝」という意味。陸上にすむかたつむり(マイマイ類)の祖先にあたり、肺で呼吸するが、水への依存もまだ完全に断ち切っておらず、河口部汽水域の満潮線よりやや上部の狭い範囲に生息が限定される。産卵も水辺で行う。これらのことから、水中の巻貝が陸上へ進出していった進化の道筋を解き明かすうえで重要な種のひとつである。しかし、本種が好む生息環境は、護岸によって最も失われやすいため、第二次大戦後に日本全体の大半の個体群が消滅し、現在なお絶滅へ急激に傾斜している。水産庁および世界自然保護基金日本委員会(WWF Japan)のレッドデータブックではそれぞれ、「危急」「危険」と評価されている。旭川河口にも今なお生息が認められるが、そこでは個体数や生息範囲の面積は極端に小さく、まさに絶滅寸前である。一方、永江川ではかなりの個体数がみられ、幼若個体も存在するため現在も繁殖していることは確実で、非常に貴重な産地と言える。岡山県最後の健在産地かもしれない。

ヒロクチカノコ (アマオブネ上目・アマオブネ科)

ヘルメットのような形をした殻径 12-20mm 程度の巻貝で、ヨシ原の中にできる水たまりなどを好み(水流を嫌う傾向がある)、石に付着している。本種も全国で急減しており、水産庁および世界自然保護基金日本委員会のレッドデータブックでは、それぞれ、「希少」「絶滅寸前」と評価されている。永江川河口のヨシ原では多産しており、産卵も確認されており、極めて貴重といえる。このような多産地は、もはや周防灘・有明海・三河湾を除いてほとんど消滅した。

ワカウラツボ (吸腔目・ワカウラツボ科)

殻長 2-3mm 程度の微小な巻貝で、赤い紡錘形の特徴的な殻をもつ。殻長 1958 年に和歌山県和歌浦の河口から新種として発表されたが、その後長らく再発見されず「幻の貝」とまで呼ばれていた(「そんな貝は存在しないのではないか。論文が間違っているのでは」とまでいう研究者もいた)。ようやく 1990 年に山口県厚狭川及び兵庫県富島川から産出が報告され、河口の泥に深く埋もれた石の下の、還元的(嫌氣的=酸素が欠乏気味の環境)となった部分を好むことがわかった。長い間発見されなかったのは、研究者が気づくよりも河口環境の悪化による個体群消失のスピードの方がはるかに速かったことが一因と思われる。このため世界自然保護基金日本委員会のレッドデータブックでは「絶滅寸前」と評価されている。永江川では、現在の樋門の近く(工事中の箇所より上流)から新鮮な死殻 1 個体が得られたため、その附近に生息している可能性が高い。

その他、永江川河口からは以下のような希少種がこれまでに確認されている(種名のあとはレッドデータブックによる希少性評価)。

イシマキ： 水産庁 減少
 フトヘナタリ： WWFJ 危険
 カワアイ： WWFJ 危険
 マルウズラタマキビ： WWFJ 危険
 カワグチツボ： WWFJ 危険
 エドガワミズゴマツボ： WWFJ 危険
 ムシヤドリカワザンショウ： WWFJ 危険
 ツブカワザンショウ： WWFJ 危険
 ウネナシトマヤガイ： WWFJ 危険

このように、全国でも絶滅の危機にある種が多数見いだされたことから、永江川河口附近の環境は比較的良好な状態に保存されていると結論できる。岡山県の各河口は、例えば「現代日本最高の内湾」「干潟の生物最後の楽園」と言われる山口県周防灘沿岸と比較すると著しく悪化しており、本来の自然を残していると考えられる河口はもはやほとんどない。そのなかにあって、永江川河口ははなはだ貴重な存在である。

オカミミガイなどの希少種貝類の救出作戦！（報告）

（株）クボタ建設 管理技術者 山本氏 挨拶	13：30
建設省岡山河川工事事務所 工務課長 挨拶	13：35
岡山大学水系保全研究室 福田助教授 オカミミガイ説明	13：40
採捕開始	14：00
採捕終了、分別、数量確認（福田助教授）	15：30
採捕結果の評価、説明	15：50
避難場所へ移動	16：30

【採捕貝内訳】

オカミミガイ	成貝	147	合計 266
	稚貝	119	
ヒロクチカナコ		237	
フトヘナタリ		3	
ウネナシトマヤガイ		87	水の中にいる二枚貝でめずらしい貝特に、救出する必要はなく水の中に放しておけばよい。
コウロエンカワヒバリガイ		73	南オーストラリア産で本来はここにいること事態がまずい貝でウネナシトマヤガイと同じ環境に生息する
マルウズラタマキビ			特に問題はない
イシマキガイ			まだ大丈夫
マガキ			広島のカキと同じ種類
ヤドカリ類			

【救出貝内訳】（右岸側ヨシ原に避難させたもの）

オカミミガイ	成貝	147
ヒロクチカナコ		237
フトヘナタリ		3

* オカミミガイの稚貝については、避難先のヨシ原に成貝しか確認できていないため今回の救出とせず、元いたところに戻し、今後検討し対応することとした。

参加者 建設省13名 地元16名 （株）クボタ建設3名 岡山大学 2名

取材報道機関 テレビ局 NHK RCN RSK OHK KSB TSC

新聞社 山陽新聞ほか3社